

# 子供たちに伝えたい日本の良さ

## 今月のテーマ ～日本と台湾の架け橋となった 八田 與一～

**東** 日本大震災後、日本赤十字社に海外から多くの義捐金<sup>ぎえんきん</sup>が寄せられました。その中で、台湾からの義捐金が2番目に多かったことを知っていますか。また、熊本地震後にも台湾から多くの義捐金が寄せられています。今日は、台湾で「ダム建設の父」や「嘉南(かなん)平野の父」と呼ばれる日本人、八田 與一<sup>はった よいち</sup>を取り上げます。

### 台湾の南部・嘉南平野

台湾南部の嘉南平野<sup>かなんとう</sup>に烏山頭ダムがあります。このダムは「八田ダム」とも呼ばれています。このダムの建設を行ったのが、八田 與一です。

與一は、明治19年(1886年)に現在の石川県・金沢市に生まれ、明治43年(1910年)に大学卒業後、台湾総督府の土木技師として働きはじめます。当時は、日本が台湾を統治していた時代です。

大正7年(1918年)、與一は台湾南部の嘉南平野の調査を行います。この平野は、台湾の中では比較的広い面積の平野でしたが、降雨が少ない上に5月から10月までの雨期に雨が集中し、農地は排水が悪く、洪水や干ばつを繰り返すという状況にさらされていました。

### 東洋一の巨大ダムの建設

そこで與一は、嘉南平野に流れている濁水溪<sup>たくすいけい</sup>と曾文溪<sup>そぶんけい</sup>の二つの河川から取水して、ダムと水路を建設することを考え、50万人の農民が生活する15万ha(当時の台湾の耕地面積の5分の1に相当)の農地の灌漑<sup>かんがい</sup>を行う計画を上司に提出します。建設計画は国会で認められ、與一は国家公務員の職を辞し、事業の受益者である組合付きの技師となって大正9年(1920年)から昭和5年(1930年)の完成に至るまで工事の指揮をしました。



【現在の嘉南平野】  
(撮影：劉映辰、張岑豪)

この工事は、世界的にこの規模での前例がなかったセミ・ハイドロリック・フィル工法を採用しました。

<セミ・ハイドロリック・フィル工法とは>

一般的に「ダム」と聞くとコンクリートダムを連想しますが、この工法は、全体の0.5%しかコンクリートを使用しません。まず、ダムの基礎は岩盤まで掘削し、底部にコンクリートの芯を造ります。次に、ダムの堤防を築造する地点の両側に玉石、栗石、砂利、小砂、粘土の混合した土壌を盛土していきます。そして、両側の盛土に向かって水を放つことで玉石はそのまま残り、栗石、砂利、小砂、粘土の順に中央部へと流され、中心のコンクリート部分に粘土の不浸透層を造り上げる仕組みです。

工費は5,400万円と巨額なものとなり、満水面積1,000ha、有効貯水量1億5,000万<sup>m</sup>の当時の東洋一となる巨大な大貯水池・烏山頭ダムとして完成しました。

完成後は水路も嘉南平野一帯に16,000kmにわたって細かくはりめぐらされました。この水利設備全体は「嘉南大しゅう」と呼ばれています。



【烏山頭ダム】  
(撮影：劉映辰、張岑豪)

これら與一の業績は、台湾の中学生向けの教科書に掲載されています。

### 涙ながらの解雇

ダムの建設は順調に進んだわけではありませんでした。当初の工事現場は環境が悪く、與一は、作業員が家族と一緒に暮らすことができるように宿舍や学校、病院、大浴場、映画館、購買施設などを作りました。これは、「良い仕事は安心して働ける環境から生まれる」という與一の信念によります。また、與一は、台湾で多く発生していたマラリアの薬を提供したり、台湾の人々と家族のように接したりしました。このような與一の考えや姿を知ることで、台湾の人々は徐々に心を開いていったのでした。

工事が順調に進みはじめたと思った矢先、山を掘削するトンネル工事の爆発事故により50人が亡くなり、100人以上が負傷しました。また、翌年の大正12年(1923年)に関東大震災が起こり、その復興のためにダム建設予算の大幅な削減が行われ、作業員を3分の1程度まで少なくしなければならなくなりました。人選を任された與一は、有能な者から退職者となりました。これは、有能な者ほどその能力から再就職が可能であると考えたからです。そして、退職者一人一人を自室に呼び、涙ながらに話をしたと言われています。また、解雇した作業員については自ら再就職先を探すとともに、工事が元の状態に戻れば優先して再雇用することを約束したことは、今でも嘉南地域の人々に語り継がれている事柄です。

## 技術者としてだけではない視点

ダムや水路の建設だけでなく、農民の生活を深く考えた「三年輪作給水法」を考案したことも與一の功績の一つです。與一には、ダムの水だけではこの地域に必要な水量の3分の1程度しか供給できないことが分かっていました。そこで、土地を分割し、稲作とサトウキビ、雑穀を1年ごとに順次栽培するという三年輪作栽培を行い、稲作の土地に給水、サトウキビの土地は種植期だけ給水、雑穀の土地は給水なしの形としたことで、農業における水の不足を解消しました。

これらの事業の恩恵は大きく、完成から7年後の昭和12年（1937年）には、米の生産額は建設前の約11倍、サトウキビ類は4倍となり、日本へ輸出されるようにもなりました。農産物で稼いだ金額は工業化へと転嫁され、その後の台湾経済の発展を支えるものとなりました。

## 台湾の人たちに慕われている與一

現在、ダムの脇には、ダムを見下ろすように與一の銅像が建てられています。この銅像は、昭和6年（1931年）に與一の功績をたたえて作られましたが、第二次世界大戦末期に金属の供出令で徴収されてしまいました。

戦後、嘉南地域の人々は與一の銅像を発見し、日本人の銅像が禁止されていた台湾で、銅像を隠し通し続け、世情が落ち着いた昭和56年（1981年）、元の場所に台座を作り直して銅像を戻しました。

銅像の與一が髪の毛を触っている姿は、彼の考える時の癖であったと言われています。また、銅像の後ろには、嘉南の人々が建てた日本風の八田夫妻の墓があります。墓石が建てられた昭和21年（1946年）から現在に至るまで、與一の命日である5月8日には献花が絶えません。

與一は、民族と国境を越えた存在として、現在もたたえられているのです。

平成24年（2012年）に、東日本大震災の義捐金への感謝として、台湾南部の台南市で「絆の桜」と名付けた桜が植えられました。この桜の苗木は日台スポーツ・文化推進協会から送られたもので、八田與一記念公園などに約200本植樹されました。



【與一の銅像と八田夫妻の墓石】  
（撮影：劉映辰、張岑豪）



【絆の桜の記念碑】  
（撮影：劉映辰、張岑豪）

## 伝統・文化に関するイベント等

### ★ 都立中央図書館

#### ○ 美術展関連・棚展示「ピーテル・ブリューゲル」

【内容】 16世紀のネーデルラント絵画を代表する画家・ピーテル・ブリューゲル1世。東京都美術館では、4月18日（火）から7月2日（日）まで、「ブリューゲル「バベルの塔」展」が開催されます。これに関連し、ブリューゲルの画集や解説書を展示します。ブリューゲル独特の魅力を、この機会にどうぞお楽しみください。  
【期間】 平成29年4月7日（金）から同年5月10日（水）まで  
【場所】 人文科学系資料・閲覧室 美術情報コーナー（3階）

#### ○ 江戸・東京を英語で学ぶ/紹介するー「江戸・東京デジタルミュージアム」

http://www.library.metro.tokyo.jp/portals/O/edo/tokyo\_library/  
【内容】 都立図書館に所蔵する貴重資料の画像と解説により、江戸・東京の歴史や文化を手軽に楽しみながら学ぶことができるウェブサイトです。全ページに英語版があり、日本語版と見比べ、英語で日本の伝統文化に触れることができます。新たに追加されたコンテンツとして、江戸時代の貴重資料を英語で紹介した動画を、東京都公式YouTubeに公開しました。



※ 英語版を見るには、各ページ右上の言語切替ボタンを押してください。

- ・江戸の絵入りガイドブック『江戸名所図会（えどめいしょずえ）』（日本語版）  
http://www.library.metro.tokyo.jp/Portals/O/edo/tokyo\_library/map/index.html
- ・江戸・東京デジタルミュージアム>大江戸カルチャー>地本・絵草紙屋『東海中膝栗毛』で有名な十返舎一九（じっぺんしゃいっく）による滑稽物語『的中地本間屋（あたりやしたちほんどいや）』（日本語版）  
http://www.library.metro.tokyo.jp/Portals/O/edo/tokyo\_library/bungei/index.html

### ★ 生活文化局

#### ○ 戦時下 東京のこどもたち

【期間】 平成29年5月7日（日）まで  
※ 休館日は平成29年4月3日（月）・10日（月）・17日（月）・24日（月）  
【時間】 午前9時30分から午後5時30分まで（入館は閉館の30分前まで）  
※土曜日は午後7時30分まで  
【場所】 東京都江戸東京博物館 常設展示室内 5階企画展示室  
【内容】 本展でとりあげる昭和4年（1929年）から昭和9年（1934年）に生まれた10人の子供たちは、12歳から7歳で開戦を迎え、それぞれの体験を通じて成長していきました。彼らの体験談やゆかりの品々の展示を通じ、平和の尊さを考える場とします。  
【料金】 一般 600円 大学生・専門学校生 480円  
中学生（都外）・高校生・65歳以上 300円 中学生（都内）・小学生以下 無料  
※詳しくはhttps://www.edo-tokyo-museum.or.jp/を御覧ください。

#### 【テーマにおける参考文献資料、写真提供】

- ・台北駐日経済文化代表処 台湾文化センター
- ・「小学館版学習まんが 八田 與一」・特定非営利活動法人 国際留学生協会
- ・台湾の水利事業に尽くした故八田與一氏 危機時代を乗り切る指針（産経新聞 平成14年11月19日付）

※ 本資料に対する御意見・御感想、本資料の活用実践等がありましたら、右記担当へ御連絡ください。今後の資料作成の参考とさせていただきます。

【担当】 東京都教育庁指導部指導企画課  
電話 03-5320-6869  
ファクシミリ 03-5388-1733